

作成する実践事例について

【作成する内容】

4つの要素〔①環境を通しての保育、②情緒の安定（養護）と教育の一体化、③遊びを通しての総合的な保育、④幼児一人一人の発達過程・特性に応じた保育、⑤子育て支援〕を具現化した実践事例

【明確にすること】

- 保育者が、①子どもの姿をどう理解（評価）し、
②そこから、どう保育者が環境を構成し、子どもを援助し、保育に生かすのか

実践園のエキス「子どもの捉え方、考え方、保育方法」を見える化
それを、下の様式に書き表す（最終的に事例集にまとめ、県内へ還元する）

【ページ数】A4判で2枚以内

子どもが主体性を発揮しながら育つ「遊びを中心とした保育の実践」

課題 ○どのような子どもの姿があり、そこから、どのような保育を目指そうとしているか

事例名

遊びを数日分のまとめりととしてとらえ記述

I ねらい

保育の場面における
ねらいを設定

II 環境の構成と保育者の援助

ねらいを具現化

III 保育の場面

実際の保育の様子を記述。ありのままの幼児の姿を記述。幼児の心のつぶやきを読み取った中で、何を考えていたかを記述

- 子どもがどんな姿をしているか
- 子どもはどんなことを学んでいるかを推測する

環境の再構成と保育者の援助のポイント

○どのような意図をもち、指導しているか

遊びや活動を重ねることで、子どもの姿や保育者に、どのような「変化」が表れたか、読み取れるように記述。

IV 学びの評価

○どのような資質・能力が育まれているか

子どもの姿や心の動きから、子どもが、どのような経験をしたか、どのような育ちにつながるのかを、総合的に評価し、事例における学びを確認

V 次の時期のねらい

今の姿から、どう次の保育を展開するかを記述

VI 小学校との連携（学びの連続性）

○子どもたちが大人になった時に、何につながると考えるか

VII 家庭との連携（子育て支援）**VIII その他（3歳未満児保育等）**